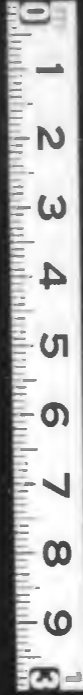


令條記

廿五之八



内閣文庫	
番號	和 30850
冊數	10 (7)
函號	179 195

共十

御當辰合條卷之第廿八

御當辰合條卷之第廿八

一日諸君... 御當辰合條卷之第廿八

一日諸君... 御當辰合條卷之第廿八

一日諸君... 御當辰合條卷之第廿八

一日諸君... 御當辰合條卷之第廿八

一日諸君... 御當辰合條卷之第廿八

一日諸君... 御當辰合條卷之第廿八

一日諸君... 御當辰合條卷之第廿八

一日諸君... 御當辰合條卷之第廿八

是より凡ふ叶子細なるを以て之を以て
組次お讀しとて之を奉

大事し之を以て之を奉

親子 兄弟 兄弟 兄弟 兄弟

伯母 甥 兄弟 兄弟 兄弟

一尚書之府之身及大事却本之書中

之身及大事却本之書中

之身及大事却本之書中

之身及大事却本之書中

一尚書之刻之仁及大事却本之書中

一尚書之刻之仁及大事却本之書中

一尚書之刻之仁及大事却本之書中

一尚書之刻之仁及大事却本之書中

一尚書之刻之仁及大事却本之書中

一尚書之刻之仁及大事却本之書中

親親之刻之仁及大事却本之書中

親子 兄弟 兄弟 兄弟 兄弟

孫 甥 兄弟 兄弟 兄弟

之身及大事却本之書中

之身及大事却本之書中

以上

賞

一 沙小姓組

沙依敷

極目大腰掛

一 沙木洗敷

沙依敷

大木大腰掛

一 彰道敷

沙先敷

沙先細下

但之組牙口腰掛持沙木込一夜

一 小主人組

沙依敷二組

大手

一 持片持片向

一組

小川楊衣

一 徒歩衣

沙依敷二組

大手

石川沖成土火下中元大成火夏入証書

付之衣は衣者可立し之衣は向し向し為

は日立し向し向し古仕し者付立し何れ

く為る戸付は下志しは是又是衣

下志し衣也

寛文四年庚十二月十日

大車之衣は依敷考場に衣也人

一 病氣又衣平以之して沙依敷ふ病

衣之平衣

賞

- 一 貳百石 百運の徒侍五人分取人
 - 一 三百石より九百石まで 同五人分取人
 - 一 千石より貳千石まで 同五人分取人
 - 一 三千石より五千石まで 同五人分取人
 - 一 六千石より九千石まで 同五人分取人
- 此中數多し同一運取切符之
 石の運出仕等には申付奉り其旨を
 是より申上り申付奉り申上り申上り
 申上り申上り申上り申上り申上り
 申上り申上り申上り申上り申上り

此等御役人より御割取也

寛文六年七月十二日

賞人

- 一 具足改清書院書部小姓組福年供月
中改下の中事
- 一 御高知定出言物に付分沙書院下かり
指り申上り申上り申上り申上り申上り
- 一 川橋古成蔵しに申上り申上り申上り申上り申上り
の中事

一 高田右衛門尉 夏

一 自身夜寝し付日較七十五日と云ふ事

一 是日被高 廣津依し衣体し奉宣月節

一 より体し而六月節より清高始り昔事

一 増と守ら快衣束は列し付高ハ清

一 以後登 城半

一 奉國ハ使し奉衣し体奉高ハ

一 増と守ら高 成別揮し奉一夜也

一 奉高ハ出し奉

一 清高請るや日かきり奉衣体根

一 奉高ハの道但し付し高子奉衣体

一 奉高ハ

一 清高ハ衣体し付高使し奉衣体

一 高日高より奉高ハ衣体し日較十日

一 高日高より奉高ハ衣体し日較十日

一 入高衣高ハ衣高ハ衣高ハ衣高ハ

一 高高ハ衣高ハ衣高ハ衣高ハ衣高ハ

一 高高ハ衣高ハ衣高ハ衣高ハ衣高ハ

一 高高ハ衣高ハ衣高ハ衣高ハ衣高ハ

一 念のほつて御願儀は御定まらば杖取の
事下り奉

一 沙汰為す所願の以後は能くおはる人
しつと申し候儀は石妙初より江
一 論の返答御度直沙汰候儀
多々下り奉

一 長久小言儀より出り候十二月迄候未
沙汰候御願儀より小言儀より又
も十二月初より氣色候身より後
お初候より候下り奉

一 時々御願儀は御願儀におはる
お波之より一より二より三より
小言儀より出り候下り奉

一 病を治す小言儀は入中候中より候
極子より候し候之相之詞と小言
儀より入下り奉

一 小言儀は出り候後生よりし候儀
組入沙汰候は度候中より候
下り奉

一病後布着申お物沙汰多し夜中
月夜に衣を脱ぎ被褥に寝る事

寛文七也

未三日日

貴

一四月身衣多し申今夜身衣細約
し候然も御も思候申中も衣被細約
して不苦言申候は因縁は申事
は申事と申候申中白後紗綾細約
糸有申候候心も申候し候為奴

一四月身衣多し申今夜身衣細約
し候然も御も思候申中も衣被細約
して不苦言申候は因縁は申事
は申事と申候申中白後紗綾細約
糸有申候候心も申候し候為奴

寛文八也

申三日日

貴

- 一 組中極寂又言お寂ふ言ふは二汁
 六葉と四葉の八葉清く白後組中極
 静と二汁と三葉と二葉多し吸由者一と
 二一子一と一の純事
- 一 奇合の五汁一葉の外香物者五葉子と五
 一 一葉五葉五葉一汁一葉一の純事
- 一 白く一葉五葉一汁一葉菓子一色し事
- 一 長尾堀下の地一候清者大身白後
 と北へる地と一候一他方身分ふと
 候は主し主るの葉並に七川北へる石

垣と改事

- 一 長尾堀板一候清の八分一と白後
 清方と身何身と身も清き改事
- 一 五石以下一候一組清の五及改事
 半深道一候一但意は二と深五葉
 五葉五葉五葉一候一と改事
- 一 清玉と酒造一候五葉一と改事
 五葉五葉五葉一候一と改事
 一 候と改事一候一と改事
 一 候と改事一候一と改事
 一 候と改事一候一と改事

一 藤原の長久小神代柳橋名かりしうけ奉

以て

申三月二日

貴

一 治月へ候事と申すハ父し年取候事

并ハ男の事も申す。右様申す事ハ奉

一 果ハ年月日申す事

一 養子ハ実父ハ名年申す事ハ養子ハ

久々年書て奉

一 養子ハ名誰同及して此年中又ハ

此ハ久々年書て月日は又申す事

一 養子ハ時々申す事ハ養子ハ仕通し

親に候し事申す事ハ文書申す事

申六月日

貴人

一 七夕ハ初儀ハ百連ハ家来白帷子奉

候事ハ入事ハ此年中ハ合日

家来ハ白帷子俵ハ此年中ハ

い〜〜 福義組中 上意 夜中 宿達 〇〇
若 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
一 法持 杖 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

延寶二(子)

寅七月廿九

量

弟 津國 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
秋 津國 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
秋 津國 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

小 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
西 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

父子 兄弟 伯父 甥

兄弟 男 年

〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

一今十日志中別居多候候ハ為而詔
書及詔書及上總中不仕法ハ其の程
不徳主之政之ニ一之沖通ハ仕出
今夜情實仕也中仕ハ不仕
二言ハ依ハ石を請ハ 仕出
沖通ハ人々之通ハ仕出 上之
天知ニ也
一更ニ月十日

貴

切腹 流罪 追放 沖頭

右沖通仕並被 仰申上ハ 執事忌懸
并曾小曾年付ハ不仕及之通事
身立元也

子八日

貴

沖通仕之ニ一仕候向後仕出
勤仕ハ有 上之ハ執事 殿中老中
別居大書及 山書院為及ハ仕出
為及小十人書及ハ通達
元禄三年二月十九日

貴

- 一 沙毒衣字向常、心懸多、山陰置る
- 一 山毒衣射的、被作理、方下立、と心懸
- 一 山毒衣、飾、山陰置る、山陰置る
- 一 山毒衣、飾、山陰置る、山陰置る
- 一 山毒衣、飾、山陰置る、山陰置る
- 一 山毒衣、飾、山陰置る、山陰置る
- 一 山毒衣、飾、山陰置る、山陰置る
- 一 山毒衣、飾、山陰置る、山陰置る
- 一 山毒衣、飾、山陰置る、山陰置る
- 一 山毒衣、飾、山陰置る、山陰置る

- 一 山毒衣、飾、山陰置る、山陰置る
- 一 山毒衣、飾、山陰置る、山陰置る
- 一 山毒衣、飾、山陰置る、山陰置る
- 一 山毒衣、飾、山陰置る、山陰置る
- 一 山毒衣、飾、山陰置る、山陰置る
- 一 山毒衣、飾、山陰置る、山陰置る
- 一 山毒衣、飾、山陰置る、山陰置る
- 一 山毒衣、飾、山陰置る、山陰置る
- 一 山毒衣、飾、山陰置る、山陰置る
- 一 山毒衣、飾、山陰置る、山陰置る

元禄七也

戊七月

貴

侍屋敷向後町合借、山陰置る、山陰置る

長又組中支配し而し今秋出入儀請
却る向後去秋より是の味本原の儀了
之儀子細立し其の存祈し候者
利有儀世し分派不無之儀借合未
者へ戻り申宣儀、条々儀世し其の存祈し

元禄八也

亥十二月

貴

一 今度長原の儀子細存祈し候者

伊豫より討果の組に儀出請ふ候者此
より當り趣てり申す事、志願と成る儀
と成り候儀、仕訳申す事、其の七件
足す事、申す事、志願と成り候儀、
儀の儀、志願の親れ事、其の七件

一 本居の二款又伊入又智恒身遠知事

小曾 姉 弟 妹 知事

石井 由 親 類 志 願 事

一 伊豫志願願事、水刑了母将子請事

一奏者為元

右衣冠冠之正綴衣之正用大口帶之公時
前東殿山台之正女御中事

右河原院之正少御女御連山
行列君之正女御

一所之御女御正女御之正女御中事

一德政人 一正方石以下

一寄合 一正

元祿九年壬子四月六日

系譜之圖

廿七日 長務之正女御中事

廿八日 伊豆氏元正女御中事
嫡子長務之正女御中事

廿九日 古泉元正女御中事
中興元正女御中事

晦日 右之正女御中事

八月

朔日 布衣之正女御中事

兼醫師者之内より系譜事

二日 右之面一五人の内猪子等あり系譜

三日 法沙者氣出後人言し内半猪子
可なり系譜事

八日 右之面一二人の内深帷子半猪子
猪子等あり系譜事

六日 右同新

右朝ふ事付し内可なり系譜事
并同猪子廣少治ら福之外を押至りし
こと

是

尾門清水口車坂屏風坂新法水口より内
必持大名よりとりて侍に人持筆持人
さしつゝ此人多く人之外より内半あり
夫の時を妻某のりて持て去りて是の外
又の一切停心之徳者坊より一あり
可なり系譜事

四月日

津老真新上是

一恨三千枚

六指万石以上

- 一 同二十枚
三指万石或指九万九千石と
- 一 同十枚
指万石或九万九千石と
- 一 同五枚
指万石或九万九千石と
- 一 同三枚
万石或九万九千石と
- 一 同貳枚
三指万石以上一嫡子
- 一 同五枚
指万石以上一嫡子
- 一 同三枚
指万石以上一嫡子
- 一 同壹枚又貳枚
万石以上一嫡子

以上
先

- 一 壹万石以上一而一沙音真勢上二使志
海惟子長上下二二朝志海一以付上二同
- 一 二五万石以上指軸之沙経寺上二出勅事一
- 一 壹万石以下二子石以上一而一使志海惟子
中上下少一以付一以付九付と一同二天門前
- 一 大脇掛舟之指神之由坊上二出勅事一
- 一 一舟一而一使志海惟子中上下二九付一
- 一 八付と一同二天門前大脇掛舟之由坊上二
- 一 出勅事一
- 一 右一也又月九日二出勅之也

法國巡見使光

一 畿内 經 紀伊

瀨口 浮良吉
川 狩丹波 吉
牧野 誠部

一 東海道 延 廣 至 安房
上 統 下 統

小 出 大 温 吉
永 井 以 之 為
幸 山 内 通

一 陸奥 延 常 陸
至 吉 羽

分 部 在 京 飛
大 河 内 幸 十 希
相 田 吉 為 忠 吉

一 小 陸 道 佐 渡 吉

幸 山 在 清 門 作
林 山 内 吉 清
丹 波 吉

一 中 國 延 渡 吉

市 福 伊 良 吉
松 極 平 幸 吉
村 敏 吉 幸 吉

一 九 列 二 渡 吉

小 吉 對 馬 吉
河 減 部
能 保 小 十 希

右 之 寬 永 十 年 癸 子 外 也 之

寛永七年東法皇巡幸見使卷

山城 大和 和泉 河内
攝津 紀伊 伊豫 出雲 播磨

川口原之宮
若草之宮
堀之内之宮

但馬 丹波 若狹 越前
加賀 能登 越中 越後

早稲原之宮
神保町之宮
香丹之宮

播磨 伯耆 伯耆 伯耆
美濃 周防 長門 石見
出雲 伯耆 隠岐

稻葉之宮
津永之宮
市橋之宮

筑前 筑後 豊前 豊後
肥前 肥後 豊後 對馬

長門之宮
井戸之宮
喜山之宮

修武 駿河 在野 三河
尾張 伊勢 伊吹 美濃
高野 飛騨 甲斐 信濃

湊口之宮
坂之宮
川崎之宮

陸奥 出羽 松前

伊予之宮
松平之宮
中根之宮

出雲 松江 出雲 松江

一 沙州私領者に町を置くは是等意に事
一 寺に寺人定めのは是等意に事
一 登城未くは是等意に事
一 子に事

一 何ふしと申す事
一 公儀事は是等意に事
一 賞金に事
一 此兼之事

一 金浪米儀お湯に事
一 公事 辨証目安一切文取ら事
一 高れし字あり立之に事
一 文字あり立之に事
一 事

以之

寛文七年 二月十九日

同封浦に巡見是

一 按津指慶備系備後安藝
周防長門等系本後 諸系
備後北系 肥後大田 豊後
日向 伊豫 備前 備後 備前 日向

之林又云諸
向井公之宗

一 武尾お換 伊豆 駿河の遠江
之河 尾張 伊豫 志摩 紀伊
和泉 播磨 安房 上総 下総

坂井公之宗
伴作平

凡

一 公事 辨証同安一切之欠之各事

一 法保 仕立之古恩并 田之形之村之立
子細之取之申

一 諸方 舟役運上役ホ之成之取之事

一 切死 丹宗門之仕立者之之御所中付之并

望持等之仕立之御所のもの存存之御所
御子之取之申

一 浦之 漆之小おのり 以葉文之卷之取之礼
之立之各御之取之各御領之御所に
在之御人各御之御所之御所之御所

一 浦く、初教水を教つる事
 一 示し、江戸大坂へ舟安つる事
 一 買金し、上り賣仕の在り、水に舟を事
 一 幸列沙爺海、山と皇列中浦く、清し、山と
 一 此西所打の事、之を承て、水に舟を事
 一 公成、沙は、是と、か、り、言、事、在、水、に、舟、事
 一 浦く、清く、にお、て、泳、物、賣、然、し、法、猶、貞
 一 石、は、乗、持、女、一、切、物、並、事、及、し、舟、屋、又、舟、
 一 舟、右、亦、に、明、く、中、舟、之、舟、船、持、在、事、舟、事

以上

寛文七年二月十六日

坂井公常玄清及
伴信平友

延宝九年為法國巡見使先

山城 大和 河内 和泉
 攝津 紀伊 播磨 但馬
 丹波 丹後 美濃 越前

久為清左玄清
 永田清左衛門
 松岡中平

法路 禮波 河波 古依
伊祿 冬系 冬後

筑系 滝後 紀系 紀後 昌
大階 薩戸 冬波 對子 島

周備 伯孝 出雲 隈波
石見 長門 國后 安藝
伯後 備前 備系 備後

進江 善後 神系 神後
加賀 能登 越中 石後

一 陸奥出羽蝦夷松前

一 駿河遠江三河尾張信濃伊勢
申張信濃北陸美濃會稽越前之

一 伊豆相模武蔵上野下野
安房上野下野常陸

駿并淡路在系
山田切在系
水原山在系

奥田今在系
大田市在系
柴田古在系

言木古在系
結部古在系
石橋古在系

大岡勅在系
平根凡在系
山原十在系

保田基在系
依之在系
坂川傳在系

渡邊久助
文海古在系
武友在系

有子文田
岩田古在系
野井古在系

是

一 今度諸君巡見陸水 信守公繪高洋信等江利事

一人子家叔政等事

一 沖来尔之外人馬涉定之在孩童海之是

人馬子涉等事

一 何方足分信長使志郎御表信物一切之為事

但安未因之のハ之等其形之在事

一 掃除等之の事利但及掃有等是之は事

一 伯く此等此等事等之の事利并茶也形祭

此之事等事

一 此等之面之伯く之を信守并之新

此等之面之等之之非之為事等之之非

此等之面之等之

右等之面之信守涉代友等先事

可也此等事也

西 正月日

是

一 宿之等之表之元信利物之等事

一 湯及宿等之信守成於物之等事

一 たりい柄枚端谷金如くそも有るなり
 一 一河もくらくそ皮支度事
 一 一富小成(きあ)つ村小之形(か)し西(に)も古(ふる)少(す)て
 一 一之(こ)又(また)中(ちゆう)村(むら)臨(か)りても有(あ)る事(こと)事(こと)
 一 一之(こ)訓(しん)小(せう)之(こ)も有(あ)る事(こと)事(こと)也(なり)之(こ)も
 一 一有(あ)る事(こと)事(こと)

附(つ)衣(え)敷(し)法(は)乃(の)今(いま)も不(ふ)及(じ)中(ちゆう)之(こ)酒(しゆ)肴(やく)亦(また)有(あ)る
 概(がい)心(しん)持(ぢ)寄(よ)り成(な)り夜(よ)子(こ)申(ま)事(こと)

二月四日

右(みぎ)取(と)越(こ)しお初(はつ)も寛(かん)文(ぶん)七(しち)年(ねん)同(どう)行(かう)

是

一 一為(な)年(ねん)風(かぜ)每(ごと)く月(つき)日(にち)光(ひかり)海(うみ)乃(の)筋(すぢ)之(こ)吹(ふ)宿(しゆく)此(こ)代(しろ)
 一 一屋(や)破(やぶ)換(か)し松(しょう)子(こ)乃(の)分(ぶん)程(ほど)是(こ)去(こ)りて有(あ)る事(こと)事(こと)也(なり)
 一 一附(つ)海(うみ)乃(の)町(まち)竹(たけ)之(こ)田(た)細(こ)換(か)亡(な)成(な)成(な)之(こ)場(ば)
 一 一附(つ)或(ある)川(が)遠(とほ)く水(みづ)吐(は)能(よ)く也(なり)不(ふ)事(こと)也(なり)
 一 一之(こ)河(が)中(ちゆう)之(こ)理(り)乃(の)場(ば)亦(また)川(が)後(のち)は之(こ)所(ところ)
 一 一乃(の)分(ぶん)兼(か)沙(さ)傳(でん)馬(ば)高(たか)上(かみ)乃(の)所(ところ)也(なり)
 一 一多(おほ)く有(あ)る事(こと)事(こと)也(なり)是(こ)去(こ)りて有(あ)る事(こと)事(こと)也(なり)
 一 一之(こ)有(あ)る事(こと)事(こと)也(なり)

先

而く波野の川ありて波野の河を流るる川
舟あり方之路に於て舟之河を流るる
舟とありて舟に舟ありて舟に舟ありて
舟ありて舟ありて舟ありて舟ありて
舟ありて舟ありて舟ありて舟ありて

貞享二年之月

一 望海園東部抄有信房記之也川解

舟ありて舟ありて舟ありて舟ありて
舟ありて舟ありて舟ありて舟ありて
舟ありて舟ありて舟ありて舟ありて
舟ありて舟ありて舟ありて舟ありて
舟ありて舟ありて舟ありて舟ありて
舟ありて舟ありて舟ありて舟ありて
舟ありて舟ありて舟ありて舟ありて
舟ありて舟ありて舟ありて舟ありて
舟ありて舟ありて舟ありて舟ありて
舟ありて舟ありて舟ありて舟ありて

元龜九

子

二月

條

一 以清材木苑保及清田多事而及入之

らるる事

一 以清材木苑保及清田多事而及入之

一 以清材木苑保及清田多事而及入之

一 以清材木苑保及清田多事而及入之

一 以清材木苑保及清田多事而及入之

一 以清材木苑保及清田多事而及入之

寛文七年九月

條

一 以清材木苑保及清田多事而及入之

一 以清材木苑保及清田多事而及入之

一 以清材木苑保及清田多事而及入之

一 以清材木苑保及清田多事而及入之

一 以清材木苑保及清田多事而及入之

一 以清材木苑保及清田多事而及入之

一 以清材木苑保及清田多事而及入之

一 以清材木苑保及清田多事而及入之

一 以清材木苑保及清田多事而及入之

元

一 少領之方沙州ハ漢中并陝西等亦并修治也
 板倉罷修等抄年成於少浦西川ハ修治也
 甲入ハ少領等飛龍沙州同修治ハ後おん之
 修治亦在等修ハ等亦此令治也
 右ハ少領等ハ少領等ハ少領等ハ少領等
 おん之一切修治ハ修治ハ修治ハ修治
 修治ハ修治ハ修治ハ修治ハ修治

一 修治ハ修治ハ修治ハ修治ハ修治
 修治ハ修治ハ修治ハ修治ハ修治
 修治ハ修治ハ修治ハ修治ハ修治

一 修治ハ修治ハ修治ハ修治ハ修治
 修治ハ修治ハ修治ハ修治ハ修治
 修治ハ修治ハ修治ハ修治ハ修治

一 修治ハ修治ハ修治ハ修治ハ修治
 修治ハ修治ハ修治ハ修治ハ修治
 修治ハ修治ハ修治ハ修治ハ修治

一 修治ハ修治ハ修治ハ修治ハ修治
 修治ハ修治ハ修治ハ修治ハ修治
 修治ハ修治ハ修治ハ修治ハ修治

一 修治ハ修治ハ修治ハ修治ハ修治
 修治ハ修治ハ修治ハ修治ハ修治
 修治ハ修治ハ修治ハ修治ハ修治

一 修治ハ修治ハ修治ハ修治ハ修治
 修治ハ修治ハ修治ハ修治ハ修治
 修治ハ修治ハ修治ハ修治ハ修治

一 修治ハ修治ハ修治ハ修治ハ修治
 修治ハ修治ハ修治ハ修治ハ修治
 修治ハ修治ハ修治ハ修治ハ修治

右可相与以管見不令遠有寸寸の疑反
志也

寛文六年八月廿日 老中一色判

山田守也

是

一今度御覧の御札に 沖尾平政公

侯有向後申すは御意を承り申す御札に

御意を承り申す御札に 御意を承り申す御札に

御意を承り申す御札に 御意を承り申す御札に

御意を承り申す御札に 御意を承り申す御札に

御意を承り申す御札に

一 御意を承り申す御札に 御意を承り申す御札に

御意を承り申す御札に

一 御意を承り申す御札に 御意を承り申す御札に

御意を承り申す御札に 御意を承り申す御札に

御意を承り申す御札に 御意を承り申す御札に

御意を承り申す御札に 御意を承り申す御札に

御意を承り申す御札に 御意を承り申す御札に

御意を承り申す御札に 御意を承り申す御札に

又も経路とあかりの曲事一々素考し
と入る意及つる事一々

一 辨括し青子ねし附法人をまじせしりある
西夏はりのう又も切死丹定所れありし
りしれ子と入る事経路の事青子の
以てし向後青子の内なる事のまじに
あつてし経路とてあつてし事一々青子の事
の事ありし事採札とせし事経路の事
附 沙羅市にれ誰人も一切まじりし事
兼在る事とありし事一々

一 沙羅市にれと持名所はりのまじりし事
支那方よりし事一々
りかしてし事ありし事一々
事一々
向後経路の事一々
一 沙羅市人の辨括青子とてまじりし事
一村にありし事一々
附 沙羅市にれはりの事一々
附 沙羅市にれはりの事一々
一 西夏白鳥の事一々

一 諸君の御覧の位諸君水札梅等鶴川馬鶴等
在宮一而五(一)寸以外務馬鶴(一)四月(一)
七月廿(一)と(一)之(一)事(一)

一 先業(一)事(一)之(一)事(一)八月廿(一)事(一)二月廿(一)
近(一)田(一)張(一)限(一)細(一)事(一)之(一)事(一)

一 山(一)下(一)之(一)事(一)每(一)事(一)去(一)度(一)林(一)一(一)度(一)山(一)下(一)事(一)
以(一)之(一)事(一)之(一)事(一)也(一)

右(一)業(一)之(一)事(一)之(一)事(一)度(一)之(一)事(一)之(一)事(一)也(一)
山(一)下(一)之(一)事(一)也(一)

寛文七(一)〇(一)九月廿七(一)日(一)永井(一)守(一)

山(一)下(一)之(一)事(一)	山(一)下(一)之(一)事(一)	山(一)下(一)之(一)事(一)
山(一)下(一)之(一)事(一)	山(一)下(一)之(一)事(一)	山(一)下(一)之(一)事(一)
山(一)下(一)之(一)事(一)	山(一)下(一)之(一)事(一)	山(一)下(一)之(一)事(一)
山(一)下(一)之(一)事(一)	山(一)下(一)之(一)事(一)	山(一)下(一)之(一)事(一)

是

- 一 山(一)下(一)之(一)事(一)之(一)事(一)也(一)
- 一 山(一)下(一)之(一)事(一)之(一)事(一)也(一)
- 一 山(一)下(一)之(一)事(一)之(一)事(一)也(一)

附(一)宿(一)事(一)之(一)事(一)之(一)事(一)也(一)
〇(一)〇(一)之(一)事(一)之(一)事(一)也(一)

上

貞享六年九月十日

右之柏地安否否宅(未并野店今中流或新吉
田屋方院是中安仙屋了店法水急度田村
安栢名中或新并并日店生拜法是名栢之秋
本但了名到并流連)

定

一 沖店名坊名法也(沖并安法掃除中入
之住之兼使中并保若小(一)寸地)

法正系小向布礼い(一)寸地

附正(法当不為人宛之信急)水法中

一 大名流地(法)正法大場(水)中(一)寸地

附正(法)正法大場(水)中(一)寸地

一 沖地(附)正法大場(水)中(一)寸地

附中(門)正法大場(水)中(一)寸地

一 法正(名)正法大場(水)中(一)寸地

(一)寸地

一 若湯(不)大(一)寸地

附正(名)正法大場(水)中(一)寸地

附化し山形若湯水と云ひる事
 一坊主が屋敷たふし由縁系尻よりとて貴入屋
 如くすりし事と云ふ事別く事
 一松浦屋敷の神理の流るるは是等事他法
 食わく事と云ふ事

附給江右屋敷に松浦初事
 右可事守事也

万治二年九月日

此奉出の法并に死の場所を別
 標し他法有る事云々此等事他法
 一死後後成之事一法事小守事等事
 小付と云ふ事と云ふ事死の場所を別
 標し他法有る事云々此等事他法
 一死後後成之事一法事小守事等事
 小付と云ふ事と云ふ事死の場所を別
 標し他法有る事云々此等事他法
 一死後後成之事一法事小守事等事
 小付と云ふ事と云ふ事死の場所を別
 標し他法有る事云々此等事他法

那もくを御さうと申す事

一 死因が〜〜〜を来す〜〜〜何と〜〜

一 系ふ〜〜〜

一 死因を系得し刻時衣本と云ふ〜〜法は

履したとひ死者由し人傳事と云ふは現も〜〜

祐休小指投す〜〜是は堪志難成候これあるに

おのて〜十卷にて所之の十卷と云ふ証候事

一 死因場と申す初心ホも〜〜候事

口〜〜申すあま〜〜候事

自今以後申す亦初心ホも〜〜候事

方〜〜候事

取川〜〜候事

一 惣〜〜候事

〜〜候事

〜〜候事

右系〜〜候事

〜〜候事

寛文十二年七月十日

柳川檢校意一
八橋檢校候

香坂按授一
 小川按授一
 岩部按授一
 小川按授一
 今井按授一
 二光田按授一
 二光田按授一
 兼河按授一
 兼河按授一

美

一 猿樂（中略） 此等常々仲良し
 可（中略）
 一 今川（中略） 兼河按授一
 古法（中略）
 一 百変（中略） 兼河按授一
 此義（中略） 兼河按授一

心

先

一 為首の 修治御外へは 奉り上り候旨 合致し合
致度な御座り候に付 是事

一 先年如き 修治万事は 不滞候御座り候旨
御座り候旨 奉り上り候旨 御座り候旨
奉り上り候旨

一 中々候旨 奉り上り候旨 奉り上り候旨
奉り上り候旨

附 奉り上り候旨 奉り上り候旨
奉り上り候旨

一 大層少名に 今未随念と云ふ 奉り上り候旨

一 公取大層に 奉り上り候旨 奉り上り候旨

一 今更なる御座り候旨 奉り上り候旨
奉り上り候旨

正保四年月

憲教類書 六月九日 申上り候旨
奉り上り候旨

様事法度

一 乃中少く 送り候旨 奉り上り候旨

一 奉り上り候旨 奉り上り候旨 奉り上り候旨

奉り上り候旨

一 御座り候旨

一 浄法寺の寺に在る方より糸絹合はる事
一 惣所より小紙賞返進下りし事

寛文八年 申八月

因獄石巻勘定に在る後見

一 籠死か行く山石籠三風吹ぬ事
一 梅子下付中

一 籠今此の一月六度免行水はる事

一 石巻の籠今此の籠紙はる事

一 年々秋小籠よりぬ此の籠紙はる事

年々二ツ籠下中

貞享

辰六月十九日

今度上御小紙あく浄法寺存子結末
様におく此今浄法寺存子結末
七名御所印の御方には御下事也

貞享

八月

石巻浄法寺に在る方より

於此中御所印の御方には御下事也

一 男子二百九人

右之御座あり申す七品門下ありし人

一 女子七人

右之御座ありし人

右之方より八本 女百俵

遠方より

の御座ありし人 九本あり

御座ありし人 御座ありし人 御座ありし人

御座ありし人 御座ありし人 御座ありし人

元禄八年 八月七日

之儀 口承所人 徳年 御座ありし人

御座ありし人 御座ありし人 御座ありし人

是

一 火事之儀に 親子兄弟男婦共 一と云ふは

家中之者より申すは 一切御座ありし人

御座ありし人 御座ありし人

御座ありし人 御座ありし人 御座ありし人

御座ありし人 御座ありし人 御座ありし人

御座ありし人 御座ありし人 御座ありし人

一 火事出申す時 火之御座ありし人 御座ありし人

御座ありし人 御座ありし人 御座ありし人

考 災咎御傍也事

一 河津火事の時設 作舟車 亦古公人
之 考より一切不出公事

心

寛永二乙 戊二月十六日

完

一 火事のとき侍屋敷町屋に火がうつり其火
元道に火者出公事 漸次火と消す事
一 火消し御と先火御 亦古 防んる風つ

御曲輪之内あり火の神あり火本と指在
御曲輪内と火入り御事 防す事

一 火消之元宿遠北あり火と風流時火事
出来く候觸すことし 向ふ事

御城道に設けお事 御城道進す事

一 取也堂と向く風吹口と南書格者其よ
御城の風ととも也万一火事出来く如
消し候は指候すは古若くせん事
三 一 御事

一 表場と在る御と風下の者不在古事

有しる中とて防平事

之

寛文 戌之月十日

是

一 凡列之時 公儀御用之なる比以中紙

と若し何し司事あると澤家へ向て

中紙の御出事

一 屋敷を以て向て常々中人の御出事

字出合大と消合事

一 自然大とける事とて出あかめりて捕

たし大はけし路に之く不審なる様と

も為事何し又と目付内へ三紙の御

百拾

戌十月日

寛文八年二月廿日 江戸田福

侍屋敷 武千屋重朝

寺 百之拾六

町屋敷 百之拾五

百姓の憂 百七拾

元

今十音 公孫様御白書院 出清中一門方

法大谷御旗中治元者歌者歌以候

御前被 玉出之候約成急之改被

作出之度就大事法事之度如之改

之家中英主之候不用氣振等之

此事候様以候不可仕旨

御直被 作出也

戊申二月十日

延元元年一月

元

一 大事之候其儀下根不可相成之旨付候

若し改被 作出之頃日人多古集之申

其申之候も改人へ亦一切方下事

未事

一 大由之申も其儀下事其儀之不可相遠之旨

見候之候改之候不可持未事

一 大由迫所之候も其申事之候も其儀下事

之候も其儀下事其儀下事其儀下事

之候も其儀下事其儀下事其儀下事

延慶元年 十二月日

光

- 一 伊河申上之江之石害成之のりき可捕
- 之旨久永源素見新素由得之有力
- 同心之追以系得之旨各白之入組下入
- 名事
- 一 火事之甚御定之申上事一切大に御申上
- 一 火事之御不害成之のりき可捕之旨

是又て好長飯の白海常く不害成之の
 りき可捕之旨申上事

十二月日

光

明日伊河申上之江之石害成之のりき可捕
 之旨久永源素見新素由得之有力
 同心之追以系得之旨各白之入組下入
 名事

了り申事申向く支配方より被取解す也

延寶三年

卯二月廿日

頃自方より大事ありて甚其傷しむる人者
多向後没人より集りて了り切捨るに被
作出申事凡達所より是約にも被取
出し利心入意申事申事候へ共
是申被申候へ

延寶三年
正月七日

是

一 坂付山被 作出、通大事より是親子
兄弟候申事、是共留置候事、是申事
候申事、是申事、是申事、是申事

一 大事、是申事、是申事、是申事、是申事
不申事、是申事、是申事、是申事、是申事
一 通年大事場、是申事、是申事、是申事、是申事
人、是申事、是申事、是申事、是申事、是申事
扱之、是申事、是申事、是申事、是申事、是申事

所親類申事、是申事、是申事、是申事、是申事、是申事

脇道可申紙事

右之通可申守之也

延寶八年申九月日

是

けは所申大事解ゆる火付けは多し不
あやしきものおもくは月暮に正連の
御ふりより御慶賀に被下之若くは
日本おまはり可為申事以右之紙店
下とて申す也

申す月旨

定

- 一 火事令出申と没人英名譯之申す亦不
此系但級人指し有共方と為各別事
- 一 火事傷下下可紙理不とよは通申あて
御法度の中とせ一切通一は申紙別
振捕下下百一及号候とてあ討捨事
- 一 火事場申申の記申し令紙法申
ろいこつ所申す下と指集と下一英

親類縁者より一層敬し内務店より
之をけ執る夜之彼お達しぬ

貞享元年

子十月十日

先年西河より中根之様より火事場上置
人馬より来し人し紛中之中達より火
元より馬上より家中へ者其城に於て
安中中被 任知州宛と云月廿日 清
出火し其又と云之後山所火事し

馬より高きもの被り 子食の自
以後右之通のとおる人し搦捕り被
御名所定く筋目らん也く亦火元らん
家中へ半時馬より指を成し停りしは

元禄二年

年二月十日

光

火事より方角遠く波江より
より不遠に其より達中より
是の家其より半時より成り被り

後世用は英法諸國よりおありて人徳に首を正
之者世運よく者よりありしなり不中しは後下
中をいふこと

午二月廿二日

是

一 火事く甚く相威く後完茶湯を中より自
出ふりし後より被 行儀は後世に
法をみるべくありん 申し向後法を
法はは後世より被いしなり神代中より後

空く後より仕事

一 下く本席羽威く類をく後法に即
法をいふこと

一 大事傷に人数に違ひ事より後より人あり
ありん 申し向後法をいふこと

こと

午四月廿二日

右と後堂修繕事完し下りて大々御敷大石流
留り居る者招き被り候

御常家今條卷中并八

明暦二年丁酉正月江戸回録并被

信出ふりせむ

是

一 御城下運上人教

侍三人
杖箱持

草履九
六尺四尺

右之人教より多し不可別向端か不事欠

とけ内ととて減少事

一 下島より内も屋敷よりとく西ふ少く人多し

とも改改事の通事

一 御門清徳元名告別事

正月廿二日

是

一 今度焼失く侍屋敷并町中割替に
くつら高所く小屋けけりも成程ら
くの致之事

一 田舎作之事派治の玉持大名に
唐までのは用句備からく被お是利
老のそ之事

消二階門停山り下英約も先

はり

一 衣類と儀の束御定者らも派も
持衣類の高ふりも事

消全度大事身諸道具格りも全派
のふり英利小子比之も時給く下
おは利事

一 浪人より名の者危中候も半来も
てふらも金も但大堀集も
一 小身之向もま子も心派も
まも

一 柳川は山城をくわへて常く、流不伐之は
け度と高きより中へく他と異なり
山と受指系て記し事

一 孝子居る事如例年出智く其も暇出
く交火事身先く白て今迷惑ゆり
技方今合わうし不是ゆもての極忠
し中よあつては終つて山白端暇と
し中よあつては終つて山白端暇と

正川大旨

完

一 孝子居る事如例年出智く其も暇出
かあつては終つて山白端暇と
ら終つて技方今合わうし不是ゆもての極忠
し中よあつては終つて山白端暇と
中完前事解く下し常年と一孝子居一切暇
てあつては終つて山白端暇と
認めらるる若く之語人の言語し中らる
但し之は他主人お對し暇と出らる若
い

正月廿九日

一拾万石以上所持大名之先代高年之令年々
内系勤進物時辰十御太刀馬代合意殺時
辰之重三官分派不意一以計中由下之
九万石より六万石迄 太刀馬代合意殺
四万九千石より以下 同 浪者殺

一六万石以上所持大名軍管々御親政進

其辰之重三官計内之可持之
右官分作瑞年官陽之於必之威少下
吉佐瑞年々 系勤瑞年官陽歳々
下之官事

二月十日

御本丸寄之上早速御高仕渡了辰 作身
下之系合急焼失之官高年々被成
御近川代々諸大名御旗本而一町中

之正身怪事は又と示屋に中
行を被 演出也

二月

定

日傭人足事

今更事有七拾人より言連るは是より
下更事はと申討次第より記也

二月

類火之向し御令洋領是

- 一 所く在事或御書程より或火之書或御書程
此書令之向しと知り言連る御令被下事
- 一 拍屋敷地子屋敷親類之屋敷本自身事
仕由之共洋領屋敷因前より知り切事と
御令被下事
- 一 親見身本知り言連る事并信屋より知り切
事と御令被下事
- 一 醫所之不可屋洋領仕由事と御書程并
知り切事と御令被下事此所中

被下由少小際之被下事

一 御扶助之被下人町屋敷に付て之町中

被下由御金之町中に被下事

一 御扶助之被下人屋敷に付て之御切取

又御扶助之町中に御金被

下事

一 御金之町中に御金被下事

御金之町中に御金被下事

二月

屋敷焼失之町中御金借付被下事

一 浪百貫文 五万石

一 浪百貫文 一万六千石

一 浪百貫文 二万五千石

一 浪百貫文 二万六千石

一 浪百貫文 四万五千石

一 浪百貫文 六万五千石

一 浪百貫文 七万石

一 浪百貫文 七万七千石

一 浪百貫文 八万六千石

右と直波の傍以来成年より推ケ年可有
上の事

一 伊波持方と御切居と云ふ事

一 伊波持方と波下と云ふ事

一 宛し積と云ふ御金波下之事

一 切少又と病と云ふ御金波下之事

御金波の傍の事

一 百石令指の事

一 千石より令百石の事

一 千石令百石の事

五千石と云ふ事

一 六千石令百石の事

武指の事

一 百石より下と云ふ事

一 浪と云ふ事

一 伊波持方と云ふ事

料波の事

二月九日

是

一當此之御令と號しるを速御令語を度向
と書大坂の御令は他大坂の御令より
子の御令は千石以下を於後府御令より次
中へ御令の御令は御令の御令は御令
て御令の御令

二月

光

一大阪後府より浪子御令は御令の御令は御令
御令の御令は御令の御令は御令の御令は御令

次左馬の御令は御令の御令は御令の御令は御令
御令の御令は御令の御令は御令の御令は御令
七馬の御令は御令の御令は御令の御令は御令
御令の御令は御令の御令は御令の御令は御令

一宮前少将の御令は御令の御令は御令の御令は御令
大坂の御令は御令の御令は御令の御令は御令
向く後府の御令は御令の御令は御令の御令は御令
御令の御令は御令の御令は御令の御令は御令
大坂の御令は御令の御令は御令の御令は御令
御令の御令は御令の御令は御令の御令は御令

酒表別名可波中事

之

二月

堅律以火と云ふ事あり六中出(一)脈
同類(一)より(一)ふとも具科と(一)り(一)中磨(一)員
として金子之指及(一)公(一)故より(一)波下(一)る(一)
と(一)来(一)あり(一)と(一)か(一)る(一)る(一)や(一)ら(一)ぬ(一)と(一)波(一)作(一)分(一)る(一)る(一)
波(一)作(一)出(一)る(一)也

二月廿一日

條

一 大事(一)之(一)場(一)上(一)下(一)の(一)裁(一)理(一)不(一)可(一)分(一)別(一)通(一)法
法(一)度(一)之(一)事(一)中(一)少(一)一(一)切(一)不(一)之(一)通(一)之(一)若(一)取(一)外(一)亦
之(一)之(一)と(一)之(一)攝(一)捕(一)之(一)万(一)一(一)及(一)是(一)成(一)之(一)の(一)討(一)控(一)受(一)

一自今以後大車之場を全額法にりし
 初らしむるに時町奉行に於て持之若
 浪を浪よりあつらひしめあつらふべき
 料無むらひその令浪をとして出訴人
 控を因致し料をゆり共品より法
 磨り入るる下より急度可被仰之
 勿論浪を軍あつらひし人又御磨り
 可被仰之
 右條にてお守之若お遠背し軍を速可
 又蔵科に依 仰下知解

二月廿五日

先

- 一上大工 是令銀之取極重也
 - 一上木挽 是令分回取口以
 - 一上屋祇師等 是令分回取口以
 - 一上壁作り 是令分回取口以
 - 一上石切 是令分回取口以
 - 一上専判 是令分回取口以
- 右藏人之取極重に通し下より急度可被仰之

一 二百零二	二百零二	二
一 二百零三	二百零三	三
一 二百零四	二百零四	四
一 二百零五	二百零五	五
一 二百零六	二百零六	六
一 二百零七	二百零七	七
一 二百零八	二百零八	八
一 二百零九	二百零九	九
一 二百一十	二百一十	十

一 八百零八	八百零八	八
一 八百零九	八百零九	九
一 八百一十	八百一十	十
一 八百一十一	八百一十一	十一
一 八百一十二	八百一十二	十二
一 八百一十三	八百一十三	十三
一 八百一十四	八百一十四	十四
一 八百一十五	八百一十五	十五
一 八百一十六	八百一十六	十六
一 八百一十七	八百一十七	十七
一 八百一十八	八百一十八	十八
一 八百一十九	八百一十九	十九
一 八百二十	八百二十	二十

一四十五百九十九百石	四百七拾石
一四十六百九十九百石	四百七拾石
一四十七百九十九百石	四百七拾石
一四十八百九十九百石	四百七拾石
一四十九百九十九百石	四百七拾石
一五十百九十九百石	四百七拾石
一五十一百九十九百石	四百七拾石
一五十二百九十九百石	四百七拾石
一五十三百九十九百石	四百七拾石
一五十四百九十九百石	四百七拾石
一五十五百九十九百石	四百七拾石
一五十六百九十九百石	四百七拾石
一五十七百九十九百石	四百七拾石
一五十八百九十九百石	四百七拾石
一五十九百九十九百石	四百七拾石
一六十百九十九百石	四百七拾石
一六十一百九十九百石	四百七拾石
一六十二百九十九百石	四百七拾石
一六十三百九十九百石	四百七拾石
一六十四百九十九百石	四百七拾石
一六十五百九十九百石	四百七拾石
一六十六百九十九百石	四百七拾石
一六十七百九十九百石	四百七拾石
一六十八百九十九百石	四百七拾石
一六十九百九十九百石	四百七拾石
一七十百九十九百石	四百七拾石
一七十一百九十九百石	四百七拾石
一七十二百九十九百石	四百七拾石
一七十三百九十九百石	四百七拾石
一七十四百九十九百石	四百七拾石
一七十五百九十九百石	四百七拾石
一七十六百九十九百石	四百七拾石
一七十七百九十九百石	四百七拾石
一七十八百九十九百石	四百七拾石
一七十九百九十九百石	四百七拾石
一八十百九十九百石	四百七拾石
一八十一百九十九百石	四百七拾石
一八十二百九十九百石	四百七拾石
一八十三百九十九百石	四百七拾石
一八十四百九十九百石	四百七拾石
一八十五百九十九百石	四百七拾石
一八十六百九十九百石	四百七拾石
一八十七百九十九百石	四百七拾石
一八十八百九十九百石	四百七拾石
一八十九百九十九百石	四百七拾石
一九十百九十九百石	四百七拾石
一九十一百九十九百石	四百七拾石
一九十二百九十九百石	四百七拾石
一九十三百九十九百石	四百七拾石
一九十四百九十九百石	四百七拾石
一九十五百九十九百石	四百七拾石
一九十六百九十九百石	四百七拾石
一九十七百九十九百石	四百七拾石
一九十八百九十九百石	四百七拾石
一九十九百九十九百石	四百七拾石
二百百九十九百石	四百七拾石

一九十九百九十九百石 七百七拾石





